

板橋区 第2回（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画検討会 会議録	
会議名	（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画検討会
開催日時	令和7年5月19日（月）15:00～17:00
開催場所	板橋区役所北館5階 504会議室
出席者	[委員]6人（敬称略） 東京大学宇宙線研究所高エネルギー宇宙線研究部門乗鞍観測所所長教授 塚 隆志（会長） 独立行政法人理化学研究所和光研究所中央研究所大森素形材工学研究室 主任研究員 大森 整（副会長） 株式会社トプコン総務・人事・法務本部総務部総務課プロフェッショナル 富田 克則 国立大学法人お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所所長 加藤 美砂子 チームオプト株式会社代表取締役社長 槌田 博文 理研計器株式会社経営企画部副部長兼経営戦略課長 下村 基子 [事務局] 板橋区産業振興課長 藤原 仙昌 板橋区産業戦略担当課長 山川 信也
会議の公開	公開（傍聴できる）
傍聴者数	1名
議題	（1）（仮称）産業ミュージアム基本構想（案）
資料	資料1 第2回（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画検討会資料 参考資料 板橋区産業振興構想2035骨子案について（概要版）
議事要旨	（1）（仮称）産業ミュージアム基本構想（案） 会長 これから具体的な内容に係る議論が進んでいくが、第1回検討会の後に 現地を視察したことが今後の議論に活きると感じている。現地視察を経て理 解できた施設の過去の利用方法を踏まえて、どのような活用が今後出来るか 議論を進めて行きたい。 まずは事務局から配布資料のご説明を頂きたい。 事務局 配布資料「第2回（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画検討会資

	料」に沿って説明する。 (資料説明) 会長 事務局からの説明内容について、委員から確認や意見はあるか。 委員 配布資料の 9 ページに記載されている史跡公園の整備方針のうちの“憩う”についてだが、産業ミュージアムの横に建っているプレハブを撤去予定とのことであるが、撤去後の広いスペースを憩いの場所として活用できないか。フェンス際に梅の木などが多く植えられており、理化学研究所の研究員が意図をもって植えたものと推察される。 事務局 該当のスペースは憩いの場として活用していけないかと考えている。 会長 前回の現地視察で分かったが、建物の周辺に多種多様な植物が生えている。施設整備の際にそれら自然を失わずに残していきたい。 事務局 樹木や草花が当地の魅力の 1 つと認識している。魅力、価値のあるスペースを取捨選択しながら検討を進める。 委員 樹木や草花の観察会は大人にも人気である。樹木や草花も活用しながら自然科学の楽しさを伝えるツアーを行うことも一案である。 事務局 建物の中の利用に閉じずに周辺の自然に触れることも重要なソフトの要素として検討を進めたい。 委員 当地は多くの研究者が日夜研究を行う活気のある場所であった。いわゆる博物館としてサンプルを展示する場所にせず、動的な活用によって価値を生
--	---

	み出せるのではないか。例えば、いくつかの部屋を回りながらものづくりが出来る体験学習などが考えられる。半日コースで、小中高生を対象にものづくり体験をしながらなぞ解きを進めるような企画も一案である。 事務局 非常に面白いアイデアと感じている。産業ミュージアムだけではなく史跡公園全体を回遊するイベントも考えられる。ご意見頂いたように歴史の展示物を飾るだけでは無く、動的な活用の方向性が良いと考えている。歴史展示だけでは施設の利用者が限られてしまう。展示・ものづくり体験どちらにしても、流動的に展示・体験を入れ替えたい。 事務局 「理研イズム」とでも言うべき、理化学研究所が大事にしている文化は何と考えられるか。 委員 「科学者の自由な楽園」と表現できる。ポジションに関係無く自由に対等に議論が出来ることが理化学研究所らしい特徴である。当地で宴会を行っている写真も見つかっているが、ディスカッションやディベートの楽しさを伝えられるカフェやバーのような機能も考えられる。 会長 子どもたちだけではなく専門家も来るようなサロンなど、理化学研究所の雰囲気を伝えられるスペースがあると良いのではないか。 委員 非常に良いアイデアと感じている。現在の若年層は「思い」を重要視する方が多い。機能面への着目ではなく、当地に込められた「思い」が伝わる場所になると良い。また、研究者の議論に対等に加われることはイノベーション創出にも寄与する。 会長 小中学生と研究者の議論の橋渡し役として高校生・大学生も参加頂けると良い。 事務局
--	---

	理系人材を育成するために当地でどのようなことが実施できると考えられるか。 委員 理系人材の育成において、企業連携を行っている。企業がどのような研究を行っているかを地元の企業・地元の人が施設利用者に伝えるだけでも付加価値は高い。大学等に来て頂いて伝えて頂くよりも、この地で伝えることに意味がある。また、調査結果から、理系進学者は幼少期に博物館への来訪頻度やワークショップへの参加頻度が高いことが分かっている。先ほどの議論のように、展示や活用方法を定期的に変えて多くの人に利用頂くことが理系進学者を増やすことに繋がる。 委員 施設来訪者に対して、施設がどのように活用されていたかを施設内の動画で発信するなどして臨場感のある空間としたい。また、上板橋にある板橋区立教育科学館にあるような、手作業で行う学習が効果的ではないか。体験・体感を通じた学習が重要と考えている。 企業との連携によって行える人材育成としては、企業が持つ技術・製品が身近な日常生活でどのように役立っているかを伝えられる場があると良い。 委員 理系人材の育成は実施するべきと考える。具体案として、国際物理オリンピックへの代表選手を決める日本大会との連携が考えられないか。例えば、代表選手の選考における合宿地として活用するなどである。 また、配布資料 13 ページに記載されている基本コンセプトが非常に重要である。主目的と波及効果を分けて考え、主目的は理系人材の育成に絞り、強い戦略に磨き上げたい。結果としてこの施設にいかにか人を呼び込めるか、を考え抜かなくてはならない。以前に史跡公園の整備計画に携わった際には、年間 100 万人の利用を目指していこうという話もあった。 事務局 産業ミュージアムの目的を明確にしてより影響力のある施設にしていくことは必要と考えている。現在考えている基本コンセプトや方向性のうち、どこに比重を置くかの議論を今後させて頂きたい。 委員
--	--

	石神井川の桜が観光資源となり多くの人が集まることが想定できるが、公園全体への来訪者と施設利用者は分けて検討を進めたい。 委員 弊学で国際生物学オリンピックに出場する学生に対しての特別教育を実施していた。国際生物学オリンピックの合宿では 10 人程度の参加者である。100 人規模の合宿を当地で実施することは難しいが、10 人規模であれば実現可能性があるのではないか。この地でトレーニングを行うことが学生にとってモチベーションの向上に繋がる。 事務局 理系人材の育成のうち、光学領域の展示やワークショップではどのような事業案が考えられるか。 委員 手作り顕微鏡や望遠鏡等、様々考えられる。光は目に見えるため、体験学習で訴求力は高いと考えている。 また、板橋の産業がどのように社会に貢献しているかを伝えていくことも重要である。例えば、有料のツアーにはなるが、バスをチャーターして建設機械の自動化を見せるツアーなどは弊社でも実施可能と考えられる。 事務局 より多くの人に産業ミュージアムを利用頂くために、区内企業と連携して当施設の内部留まらずに他の施設も回遊する体験・イベントを実施することもある。 委員 体験イベントだけではなく、ディスカッションもワークショップの一つのコンテンツになる。アントレプレナーシップ教育を小中学生から行うことに価値がある。事前に多くの準備を必要とせずとも、お題と資料を提供し自由に考えてもらう・発表してもらうだけでも十分ではないか。 また、小中学生を対象としたイベントやワークショップを行うと保護者の方が同席することも多い。文系出身の保護者に対して理系の楽しさやキャリアを伝えることも理系人材の育成に資する。 事務局
--	--

	配布資料の 13 ページに記載している「主要機能」の一つの産官学連携における具体的な事業のアイデアとしてどのようなものが考えられるか。 委員 AI 領域の学生起業家と話す機会が多いが、地元のものづくり企業と連携できるかが事業の継続可否に関わっていると感じている。学生起業家と地元企業が交流出来る場としての活用であれば当施設でも実施可能ではないか。 事務局 その場合、どのような設備が必要か。 委員 大がかりな設備が必要な訳ではない。当施設はブレインストーミングの場として活用して、ものづくりは別の場所で行う形で問題無い。あくまで交流の場としての活用を想定している。 また、交流の場として活用する場合、施設利用者を確保するためにも区内の企業に限定しないことが重要である。 委員 産官学連携はそれぞれの目的が異なることから実現が難しい印象である。理系人材の育成を第一の目的として人を呼び込み、産官学連携は波及効果として狙う程度で良いのではないか。 事務局 地元企業の立場として当施設で産官学連携を行うことに対してどのように考えられるか。 委員 まだ、具体的なイメージが持てていない。企業としては、優秀な学生と接点を持てることよりも、事業内容に興味を持ち就職を考えてくれている学生と接点を持てることの方が重要である。 委員 企業の立場においては、研究中の最新技術などを公開できないことが産官学連携における一つの障壁となる。
--	--

	委員 国と連携する産官学よりも自治体と連携する産学公の方が、イメージに近い。 事務局 例えば当施設に研究拠点を設けることなどは考えられるか。 委員 当施設に研究室が入居することは可能である。2～3 の部屋を活用できれば広さとしても十分である。新進気鋭のベンチャー企業や、板橋区が注力しているヘルスケア領域で特定のテーマの研究を行う研究室に入居いただくことは一案である。 事務局 研究室が入居した場合、施設利用者に開けたオープンな空間とすることは出来るか。 委員 研究テーマ次第で可能である。この地でクリエイティブな研究を行うことには意義がある。 事務局 そろそろ検討会終了の時間となるが、最後にご発言のある方はいるか。 委員 野口研究所跡地の検討はどのように進んでいるか。 事務局 野口研究所跡地の検討は、史跡公園全体の整備検討の中で進める。現状としては、野口研究所の調査を進めており、研究員の方々が持っている様々な歴史的な証跡を活用しながら、今後の調査・発見に基づいて検討を進めて行く。 事務局 以上にて質疑を終了とする。後日、第3回検討会、第4回検討会の日程調整をさせていただきます。
--	--

	会長 これにて第 2 回検討会を終了とする。
所管課	産業経済部 産業振興課 産業遺産担当係 （電話 03-3579-2430）